

## GOD WITH US

### Part 9: ACTS

#### Message 2 – The Ministry in Jerusalem

##### Acts 3-7

##### 神は我らと共に

##### パート9：使徒の働き

##### 第2メッセージ：エルサレムにおける伝道

##### 使徒の働き第3－7章

### はじめに

ルカは、3つの地理的段階に分けて福音の信仰を記録している：エルサレム>ユダヤ／サマリア>地球の遠隔地（参照：使徒1：8）。使徒たちは、第一段階で、十字架で死なれ、復活された主のメッセージをエルサレムの同胞に提示している。それは、イエスを拒絶し、十字架につけた、まさにその人々への救いのメッセージの再提供である。そして、その再提供は一般の人々の間で歓迎された（信者の数は120人から5000人以上に膨れ上がった）が、宗教指導者たちは、救世主イエスに関する使徒によるメッセージを拒絶し続けた。多くの葛藤と迫害の後、エルサレムにおける伝道は、イエスの敬虔な追随者であったユダヤ人の若者ステパノの証言で頂点に達する。ユダヤ人宗教指導者たちは、ステパノを投石による死刑に処したことによって、十字架で死なれ、復活された救い主／救世主であるイエスによる赦しと贖いの福音の扉を叩き閉めた。

### 神殿における足の不自由な人の癒し：3：1－10

エルサレムにおける伝道の部分は、神殿での癒しの奇跡の物語りで始まる。ペテロとヨハネは、午後の祈りのために神殿に向かった。その記述は、彼らがまだユダヤ人の宗教慣習の参加を継続していたことを示した。足の不自由な人が神殿

に入ってきた礼拝者からの施しをこうしていた。ペテロはイエス・キリストの名によって、足の不自由な人を癒した。

ペテロが言った、「金銀はわたしには無い。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」。（使徒の働き3：6）

この奇跡によって引き起こされた騒ぎは、十字架につけられ、死なれ、復活された主に関する二度目の説教の機会をペテロに与えた。

### ペテロ、キリストを褒めたたえる 3：11－26

彼の最初の説教（使徒の働き第2章）の様に、ペテロは彼らが十字架につけたイエスを神が高揚されたと説明した。

アブラハム、イサク、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光を賜ったのであるが、あなたがたは、このイエスを引き渡し、ピラトがゆるすことに決めていたのに、それを彼の面前で拒んだ。あなたがたは、この聖なる正しいかたを拒んで、人殺しの男をゆるすように要求し、いのちの君を殺してしまった。しかし、神はこのイエスを死人の中から、よみがえらせた。わたしたちは、その事の証人である（使徒の働き3：13－15）。

罪の赦しが受けられるように、「悔い改めて神に向かう」よう要求した（参照：2：38, 39）。「あなたの指導者たちと同様に、彼らは無知に行動した」と言った（使徒の働き3：17）。旧約聖書で反逆の罪と無知の罪の間には区別があった（参照：民数記15：22－31）。

## ユダヤ人サンヘドリンの前のペテロとヨハネ：4：1－22

ペテロが話していた時、神殿の司祭たちと警備員たちがやって来て、ヨハネと共にペテロを逮捕し、夜の間、刑務所に入れた。彼らは、ペテロとヨハネがイエスの名を褒めたたえていたことに不安を感じた。翌日、サンヘドリン（ユダヤ教最高議会）は、ペテロとヨハネを調査するために集まった。これはイエスを拒絶し、処刑するためにピラトに連れて行った議会であった。ペテロに大胆に反応する権威が与えられた：

その時、ペテロが聖霊に満たされて言った、「民の役人たち、ならびに長老たちよ、わたしたちが、きょう、取調べを受けているのは、病人に対してした良いわざについてであり、この人がどうしていやされたかについてであるなら、あなたがたご一同も、またイスラエルの人々全体も、知ってもらいたい。この人が元気になってみんなの前に立っているのは、ひとえに、あなたがたが十字架につけて殺したのを、神が死人の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのである。このイエスこそは『あなたがた家造りらに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」。（使徒の働き4：8－12）

指導者たちは、ペテロとヨハネが「教育を受けたわけではない普通の男たち」であったので、彼らの知恵と勇気に驚いた。指導者たちはまた、ヨハネとペテロが「イエスと共に」いた者たちであったことを認めた。個人的に話した後、議会は、ヨハネとペテロにイエスの名前によって語ることを止めるよう命じることに決めた。使徒たちは、しっかりと反論した：

ペテロとヨハネとは、これに対して言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない」。

（使徒4：19，20）

天の下に、私たちが救われるべき名前は、イエスの他に存在しない。人でなく、神に従うこと以外の義務は存在しない。それらは初期クリスチャンの中心的な信念であった。証人たちの根底には、緊急性と義務の両方が備わっていた。彼らに人類のための唯一の希望について話すことを止めることは不可能であった。あなたの影響下にある人たちに、イエスについて話すことを妨げているものは何ですか？イエスが、真の唯一の救いの希望であることを、あなた自身は信じておられるでしょうか？神に従うのではなく、救いについて沈黙すべきという文化的圧力に従っておられないでしょうか？使徒の働きは歴史書としてだけでなく、私たちが挑戦すべき模範として与えられている。彼らが生きた様に生きていますでしょうか？彼らと同じ信仰を持っているでしょうか？

## 祈りの集会：4：23－31

釈放後、ペテロとヨハネは、弟子たちの中心的グループに戻り、礼拝と祈祷に入った。彼らは天国の主権者の王国に対して激怒している国々について語っている詩編2章を引用した。指導者たちが何をしようとしたとしても、イエスが支配されていたことを神に賛美した。最後に祈り求めた：

主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切つて大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばしてい

やしをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡とを行わせて下さい」（4：29，30）。

神は、力強い方法で彼らの祈りに応えられた：

彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。  
(使徒4：31)

使徒の働きの中では、信者の内に宿る御霊の御力が非常に強調されている。しかし、これらの初期の信者が「御霊で満たされた」ときに御霊が生み出した鍵となる果実に注目することが重要である。鍵となる果実は、御霊に力を与えられた証言であった。どんな状況にあっても、御霊は絶えずイエスについて大胆に話す言葉で信者たちを満たした（権限を与えられた）。それが御霊にとって最も重要な願いであった：イエスの名の向上。重要な聖句、使徒の働き第1章8節に、「**聖霊があなたがたに下る時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう**」とある。今日あなたを満たして下さる（力が与えられる）ように御霊により頼みましょう。そして、イエスの愛をあなたの道を横切る人々に知らせる機会を見逃さずにいましょう。

#### 概要：信者たちの所有物の共有：4：32－35

ルカは、使徒の働きのあちらこちらで所有物の共有について記している。バルナバは寛大さの模範である。所有物を売ることによって、初期クリスチャンたちは、成長中のキリスト教の共同体内の緊急な必要性を満たした。この記述は、次の場面の真の寛大さを回避しようとした夫婦の物語の前置きでもある。

#### アナニアとサツピラの死：5：1－11

シャーリーによるコメント

サツピラの名前は、美しい青い宝石「サファイア」という言葉に由来する。悲しいことに、彼女の輝きは、模範ではなく、厳格な警告として用いられている。彼女はアナニアと結婚し、二人は、エルサレムの初期のクリスチャン教会の一員であった。二人の物語から、私たちは嘘をついたり欺くことへの誘惑は、今日も信者全員を揺るがす非常に現実的な誘惑であることを学んでいく。

クリスチャンになるということは違法とされ、信者たちは仕事と財政を失った。彼らの資産のすべてを譲渡する義務はなかったものの、共同体はそれぞれの資源を惜しみなく共有した。使徒の働き第4章34節は、時に、人々は自分たちの土地を売ったり、家を売ったりして資源を手放した事実を告げている。名前が「励まし」を意味するバルナバは、彼の土地を売却し、使徒たちにすべての利益をもたらした。彼は寛大さの良い模範であった。

おそらくアナニアは、バルナバの様に輝き、共同体からの賞賛を受けたいと思ったのでしょ。彼の行動は、外面的に良く見せることであった。しかし、彼の心と動機は異なり、サタンはアナニアに、ペトロに嘘をついても、すべてが丸く収まると信じさせた。

アナニアは、自分の土地をいくらか売り、収入の一部を控えたにもかかわらず、すべてを共同体のために与えたと思わせる様に皆を欺いた。正直に収入の一部を与えたと告げればよかったのである。サツピラもまた、アナニアの収入の一部を秘密にしておく計画についての知識を共有していた。

この事件の直前に、ルカは、ペテロとヨハネがユダヤ人指導者たちに宣言した重要な原則を記録している。彼らは言った、「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。」より高い律法は人ではなく神に従うことであった。サツピラは、夫が神の御言に背くことを見守るのではなく、神に従うことが正しいことを知っていた。キリストの妻であり姉妹として、正直であり続け、偽りではなく誠実さを保つ道を夫に思い出させる義務を持っていたがサツピラはそれを怠った。

おそらくサツピラは、全額を手放してしまったら、神が自分たちの必要を満たして下さらないかもしれないという恐れを抱いていたかもしれない。あるいは、嘘をつくことが神にとって大した罪ではなかったと信じていたかもしれない。理由は定かではないが、彼らは自分たちの行動を合理化した。最小の行動や習慣さえも合理化することは、神の恵みと神聖さを無視することである。

アナニアが嘘と欺き行為で亡くなってから3時間後に、サツピラが使徒たちに現れた。彼女にも真実を語る機会が与えられた。ペテロは彼女に尋ねた、「あの地所は、これこれの値段で売ったのか。そのとおりにか」。彼女は「そうです、その値段です」と答えた。ペテロは言った、「あなたがたふたりが、心を合わせて主の御霊を試みるとは、何事であるか。見よ、あなたの夫を葬った人たちの足が、そこの門口にきている。あなたも運び出されるであろう」（使徒の働き5：8，9）。夫同様に即座に亡くなり、共同体に大きな恐れを引き起こした。

私たちが嘘をついたり欺くことをしても、即死することは無いが、良心があれば罪悪感を覚える。ペテロが宣言したよ

うに、私たちの罪は神に対して最初のものであることを認める必要がある。そして、それが他の人に及ぼした影響を認めなければならない。箴言第3章12節は、良き妻としての教えである。「優れた妻は生きながらえている間、その夫のために良いことをして、悪いことをしない。」。たとえそれが良く受け取られなくても、勇気を持って真実を語ることが神の目に正しい行いである。

この話は、人々を感動させるためでなく、正しい理由で寛大であるように、正直に真実を語るように、神は全てを見ておられ、報いを与えて下さる神である一方、裁かれ正される神であることを忘れてはならないと私たちに教えている。

---

神は、アナニアとサツピラに、なぜこの様な厳しい裁きを下されたのでしょうか？おそらく、それがクリスチャン共同体の始まりであり、そのような重大で生命を形成する瞬間に欺瞞を導入するためにサタン（使徒5：3）によって動かされていたからでしょう。イスラエルが約束の地で国民として新しい生活を始めたのと同じ様に、偽って資源を隠したアカンという男にも、同様の厳しい判断が下された（参照：ヨシュア記7章）。この危機的な時期に、初期の教会では2つの重要な価値観が形成されていた。1）寛大さの実践、及び、2）使徒たちの指導者的権威。アナニアとサツピラの行動は、駆け出しの教会生活の中で両方の価値観を弱体化させるために悪魔の攻撃であった。彼らの死は皆に影響を及ぼしました：

「教会全体ならびにこれを伝え聞いた人たちは、みな非常なおそれを感じた。」（使徒の働き5：11）。

#### 要約：使徒たちの権威：5：12－16

そのころ、多くのしるしと奇跡とが、次々に使徒たちの手により人々の中で行われた。そして、一同は心をつにしめて、ソロモンの廊に集まっていた。ほかの者たちは、だれひとり、その交わりに入ろうとはしなかったが、民衆は彼らを尊敬していた。しかし、主を信じて仲間に加わる者が、男女とも、ますます多くなってきた。ついには、病人を大通りに運び出し、寝台や寝床の上に置いて、ペテロが通るとき、彼の影なりと、そのうちのだれかにかかるようにしたほどであった。またエルサレム附近の町々からも、大ぜいの人が、病人や汚れた霊に苦しめられている人たちを引き連れて、集まってきたが、その全部の者が、ひとり残らずいやされた。  
(使徒5：12－16)

#### 使徒たちの2度目の逮捕：5：17－42

使徒と宗教指導者との間の緊張が高まり続けた。使徒たちは、再び逮捕され、その夜刑務所に入れられた。サンヘドリンが翌朝集まったとき、囚人はどこにも見つからなかった！主の御使いが奇跡によって彼らを解放し、朝までに、イエスについて再び説教するために神殿に戻った。

そこへ、ある人がきて知らせた、「行ってごらんください。あなたがたが獄に入れたあの人たちが、宮の庭に立って、民衆を教えています」。そこで官守がしらが、下役どもと一緒に出かけ行って、使徒たちを連れてきた。しかし、人々に石で打ち殺されるのを恐れて、手荒なことはせず、  
(使徒5：25－26)

使徒たちが再び逮捕され、議会の前に連れて行かれたとき、以前と同じメッセージを繰り返した：

これに対して、ペテロをはじめ使徒たちは言った、「人間に従うよりは、神に従うべきである。わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスをよみがえらせ、そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである。わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜った聖霊もまた、その証人である」。(使徒5：29－32)

議会は、ペテロと他の使徒たちを殺害したいと望んでいたが、ガマリエルという名高い指導者は、彼らから手を引いて、そのままにしておくよう勧めた。

そこで、この際、諸君に申し上げる。あの人たちから手を引いて、そのなすままにしておきなさい。その企てや、しわざが、人間から出たものなら、自滅するだろう。しかし、もし神から出たものなら、あの人たちを滅ぼすことはできない。まかり違えば、諸君は神を敵にまわすことになるかも知れない」。そこで彼らはその勧告にしたがい、  
(使徒の働き5：38、39)

神と戦う者たち(英: God-fighters ギリシャ語: theo-machoi) 神と戦っても勝ち目はない！ガマリエルは、使徒たちの処刑を回避することに成功した。議会は彼らに鞭打ちを与えて解放した。

注意：ガマリエルは、物語の中で二番目に重要な人物である。当時、最も尊敬されていたラビ人の一人であった。彼の重要な生徒の一人がサウルという名の若いユダヤ人男性(使徒の働き22：3)で、後の使徒パウロである。ガマリエルは、イエスの弟子に関して「待つ様子を見る」という方針を助言したが、サウルは、クリスチャンに対する主たる迫害者となって激しい攻撃の方針を採択した(使徒8：1－3)。それは、生徒が恩師

の知恵に耳を傾けなかった事例である。サウルは「神と戦う者」であったが最終的に負けた！

使徒たちは激しい鞭打ちにどう反応したのでしょうか？

使徒たちは、御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜びながら、議会から出てきた。そして、毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。「使徒たちはサンヘドリンを去りました。彼らがその名のために不名誉を被るに値すると数えられていたので喜びました。毎日、神殿の宮廷で、そして家から家へと、彼らはイエスがメシアであるという良いたよりを教えたり宣言したりすることを決して止めませんでした」(使徒5：41, 42)。

キリストに従う者である結果、あなたに今までに起こった最も悪いことは何でしたか？ 友だちを失われた方、チームの一員になる機会を失われた方、仕事を失った方、仲間からの尊敬を失った方、心から愛する人との交際が破断となった方、家族関係を失った方もおられるかもしれない。イエスは、私たちの主への愛着に関連し、コストがかかることを明らかにされた(参照：マタイの福音書10：34-39)。必要であるなら、イエスの信者であることの代償を受け入れる覚悟がありますか。イエスに対するあなたの愛は、今あなたに何をもたらしていますか？

#### 7人の助け人の選択：6：1-7

初期のクリスチャンコミュニティの組織構造は急速な成長に追いつく必要があった。数カ月で、コミュニティに加入し

た人の数は、10,000人以上で、12使徒だけで導いたり、保護するには、圧倒的に多すぎた。最初の教会論争は、ヘレニズム(ギリシャ)ユダヤ人が共同の食事の時にヘブライ人ユダヤ人の未亡人が敬意をもって扱われていないと不平を言った際に起こった。この様にして、使徒たちは、コミュニティの日々の必要が公平かつえこひいき無しに満たされていることを確認するために7人の助け人を任命した。

この時点で職務の分割が生じ、最近では「執事」(ギリシャ語で「使用人」を意味する)と「長老」(「監督者」とも呼ばれる)の職務の区別が生じた。ペテロは職務分担を始めた：

そこで、兄弟たちよ、あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判のよい人たち七人を捜し出してほしい。その人たちにこの仕事をまかせ、わたしたちは、もっぱら祈と御言のご用に当ることにしよう」。(使徒6：3-4)

将来の教会の組織においては、教会の目に見える必要に焦点を合せて執事となる。長老たちは、教会の霊的な方向性に集中するようになる(参照：第一テモテ第3章とテトス)。

#### ステパノの逮捕：6：8-14

ステパノは、初期の教会の必要に応えるために選ばれた7人のうちの1人であった。彼は伝道と奇跡の働きの賜物を持った、霊に満たされた起動であることを証明した。

さて、ステパノは恵みと力とに満ちて、民衆の中で、めざましい奇跡とするしとを行っていた。すると、いわゆる「リベルテン」の会堂に属する人々、クレネ人、アレキサンドリヤ人、キリキヤやアジャヤからきた人々などが立って、ステパ

ノと議論したが、彼は知恵と御霊とで語っていたので、それに対抗できなかった。（使徒6：8－10）

ステパノは、逮捕され、裁判のためにサンヘドリンの前に連れて行かれた。彼に対する告訴は、神殿、律法および律法の供与者、モーセを汚したという内容であった：

それから、偽りの証人たちを立てて言させた、「この人は、この聖所と律法とに逆らう言葉を吐いて、どうしても、やめようとはしません。『あのナザレ人イエスは、この聖所を打ちこわし、モーセがわたしたちに伝えた慣例を変えてしまおう』などと、彼が言うのを、わたしたちは聞きました」（使徒6：13，14）

彼の大胆な証言は、使徒の働きの重要なポイントの一つである。それはまた、旧約聖書の歴史全体の抜本的な見直しである。

#### ステパノの証言：6：15－7：53

ペテロとヨハネは、サンヘドリンの前に現れ、復活したキリストについての短い証言をした。しかし、完全な物語をユダヤ人指導者たちに伝える役割はステパノに任された。

- 7：2－8 アブラハム、イサク、ヤコブにお現れになった神について語り始めた。イスラエルと神の間の契約関係のしるしとして、いかに彼らに割礼が与えられたかに注目した。

- 7：9－16 ヨセフが兄弟たちによってエジプトに売られたこと、ヨセフがパロの宮殿の支配者になるために昇格した過程、そしてヤコブを含む残りの一族が、どのようにしてヨ

セフによって救われるためにエジプトに移ったかを思い出させた。拒絶された救世主のテーマはここから始まり、彼の演説は続く。

- 7：17－43 神が、モーセを神の民の救出者として用いられたことについて話した。モーセは、40歳の時、自分の民に拒絶され、80歳のときに、神が救い主として用いられたことを語った。

こうして、『だれが、君を支配者や裁判人にしたのか』と言って排斥されたこのモーセを、神は、柴の中で彼に現れた御使の手によって、支配者、解放者として、おつかわしになったのである。この人が、人々を導き出して、エジプトの地においても、紅海においても、また四十年のあいだ荒野においても、奇跡とするしとを行ったのである。この人が、イスラエル人たちに、『神はわたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟たちの中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう』と言ったモーセである。（使徒7：35，36）

ところが、先祖たちは彼に従おうとはせず、かえって彼を退け、心の中でエジプトにあこがれて、（使徒7：39）

また、モーセの預言を思い出させた：「この人が、イスラエル人たちに、『神はわたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟たちの中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう』と言ったモーセである。」（使徒7：37、申命記18：15）イエスがモーセに似た預言者であると彼らに告げた。神によって送られたが、それでも人々によって拒絶されたと。

- 7：44－50 モーセが荒野で築いた幕屋を運びながらヨ

シユアがどのようにして人々を約束の地に導いたかを語った。イザヤ書66：1，2を引用し、神が人間の手によって造られた家に住まれないことを思い出させた。ステパノが神殿の破壊について話したとして非難されたことを思い出しましょう。

- 7：51－53 最後にステパノは、預言者たちが語った先祖の様に、指導者たちの心の頑なさを非難した。

ああ、強情で、心にも耳にも割礼のない人たちよ。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっている。それは、あなたがたの先祖たちと同じである。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、ひとりでもいたか。彼らは正しいかたの来ることを予告した人たちを殺し、今やあなたがたは、その正しいかたを裏切る者、また殺す者となった。あなたがたは、御使たちによって伝えられた律法を受けたのに、それを守ることをしなかった」。 (使徒7：51－53)

#### ステパノの投石の刑：7：54－60

ローマ人は、ユダヤ人が死刑を執行することを許可しなかった。それでも、怒りから石を投げて殺した。ステパノは死ぬとき、天国の幻覚を見た。そして彼の死刑を執行した人たちのために別れの言葉を告げた：

しかし、彼は聖霊に満たされて、天を見つめていると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見えた。そこで、彼は「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいでの見えるのが見える」と言った。．．． こうして、彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈りつ

づけて言った、「主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい」。そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」。こう言って、彼は眠りについた。(使徒7：55、56、59－60)

イエスと同様に、ステパノは、死刑執行した者たちに対する神の赦しを祈った。

「これに立ち合った人たちは、自分の上着を脱いで、サウロという若者の足もとに置いた。」(使徒7：58)。おそらくサウロは、ステパノと同年代であった。

ステパノの投石は、ユダヤ人指導者たちによる、イエスに関する良い知らせの寛大な再提供に対する、非常に反抗的な拒絶であった。彼らは、最初の時もイエスを拒絶した。そしてその時、二度目に神によって送られた使者たちを拒絶した。エルサレムでの任務は、ステパノの瀕死の息で正式に終わりを迎えた。異邦人の世界に特に重点を置いて、神は、クリスチャンの証人たちをエルサレムから、より広い世界へと駆り立てられた。

#### 討論のための質問

1. 使徒3－7章で述べられている、初期のクリスチャン証人たちの性格について、あなたが最も尊敬するのはどこですか。
2. 初期クリスチャンたちの共同体生活のありかたについて、あなたはどのように思われますか？コミュニティではどうですか？
3. ステパノの生涯、伝道、死から何を教えられましたか？(使徒第6、7章)。あなたが大胆な証人になることを妨げているものは何ですか？